

チビクワガタ

Figulus binodulus Waterhouse

コウチュウ目クワガタムシ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由

県内の2箇所でわずかな個体が採集確認されているものの、詳細な調査はこれまで行われていない。

形態

クワガタムシ類の中では小型の種で筒型の体型をしている。体色は全体黒色で光沢が強く、上翅の条溝は浅いが完全である。大顎に雌雄二型が現れないため、慣れないと雌雄の区別が難しい。前胸背板には深くよく目立つ縦溝を持つ。

国内分布

暖地性の種で、本州（静岡県以西）、四国、九州、伊豆諸島（御蔵島、八丈島）に分布する。

県内分布

加賀市と金沢市の2箇所で生息が確認されている。より南方から海流に乗って石川県にまで分布を拡げてきたものと思われ、県内では海岸に沿って分布している可能性が高い。海岸付近に残された雑木林を調査することで、新たな産地が見つかるものと思われる。

生態

一生の大部分を朽ち木の中で過ごすクワガタムシで、1年を通して成虫を見ることができる。成虫は肉食性が強く、ゴミムシダマシの幼虫などを捕食する。しかし、幼虫は肉食性ではなく、他のクワガタムシ類と同様に朽ち木を食べて成長する。幼虫が朽ち木を食べやすいように成虫が朽ち木を噛み砕くという習性があることから、亜社会性昆虫と考えられている。産卵時期は初夏頃で、数ヶ月程度で羽化してそのまま朽ち木の中で越冬する。成虫の寿命は1年ほどで、同じ朽ち木の中に親世代の成虫と新成虫とが入り交じった状態で見られることがある。

生息地の条件

水分がある程度保たれている、生息に適した広葉樹の朽ち木があること。

生存の危機

海岸付近の雑木林は常に開発の危機にさらされているが、開発に伴う伐採は雑木林の乾燥化を促進する。そのため、本種の生息に適する水分を保った朽ち木の乾燥化も進み、本種の生息できる環境がなくなってしまう。



標本提供者：森幸彦

分布図はありません。

県内の分布